

状況はコントロールされている 影響はブロックされている

年の初めに
昨年安倍総理の
「迷言」をおさらい

参議院の質問主意書（民主党 牧山ひろえ氏）

「福島原発事故収束に関する政府の基本認識に関する質問主意書」

<http://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/syuisyo/185/syuh/s185097.htm>

（一部抜粋）

1. 福島第一原発の汚染水問題について安倍首相は、何を根拠として「状況はコントロールされている」と言明しているのか。
2. (タンクからの汚染水漏れが継続しているが) こうした状況が継続していてもなお、福島第一原発はコントロール下にあると認識しているのか、政府の見解を明らかにされたい。
3. 1から3号機内の燃料デブリの状況は、政府が言う「コントロール下」ではどのような状況にあるとみているのか、現時点で把握している状況について示されたい。

に対する安倍総理の答弁書（2013年12月17日）

<http://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/syuisyo/185/touh/t185097.htm>

1から3までについて

東京電力株式会社の福島第一原子力発電所においては、汚染水貯水タンクからの汚染水の漏えい等の個々の事象は発生しているが、同発電所の港湾外における海水の放射線モニタリングの結果によれば、放射性物質の濃度は検出できないほど低いか、基準濃度をはるかに下回っている状況にある。このため、汚染水による放射性物質の影響が見られるのは同発電所の港湾内の〇・三平方キロメートルに完全にブロックされており、全体として状況はコントロールされていると考えている。また、同発電所の一号機から三号機までの各号機における原子炉内の状況については、目視等による直接の確認はできていないが、原子炉等の温度及び圧力の計測の結果等から、注水により安定的に冷却されているものと判断している。

「コントロール」の根拠としている海水のモニタリングについて
原子力規制委員会による検討会が昨年12月9日にも開催されました。

2013年12月9日

第3回海洋モニタリングに関する検討会

今までのポスターでも第1回から紹介してきましたが、
<http://brownmorning.s3-website-ap-northeast-1.amazonaws.com/index.html>

この検討会では研究者を外部有識者として招き、
現在の海洋モニタリングの評価や将来のモニタリング方法の検討等をおこなっています。
http://www.nsr.go.jp/committee/youshikisya/kaiyou_monitoring/

さて、現状の海水のモニタリングがどのくらいの頻度なのか？
第2回海洋モニタリングに関する検討会 資料4「海洋モニタリングの現状」
によると、近傍の5ヶ所で1日に1回が最大です。

測定地点	近傍	海岸線から 30km以内	30-90km	90-280km
測定点数	5	約120	32	10
測定頻度	1回/日	1回/週～1回/月	1回/3ヶ月	1回/6ヶ月

↑ この近傍5ヶ所は次ページ図を参照

下図の星印5カ所で毎日1回海水を測定し、そこでの放射性物質の濃度が低いことを根拠に「汚染水の影響は港湾内でブロックされており、状況はコントロールされている。」と安倍首相は言っているわけです。

東電の話では、この辺りの海は結構荒れているとのこと。

っということ。。。

じゃんじゃん混ざっている海水を1日に1回測定して放射性物質の濃度が低いので大丈夫です、と言っているんですよ。

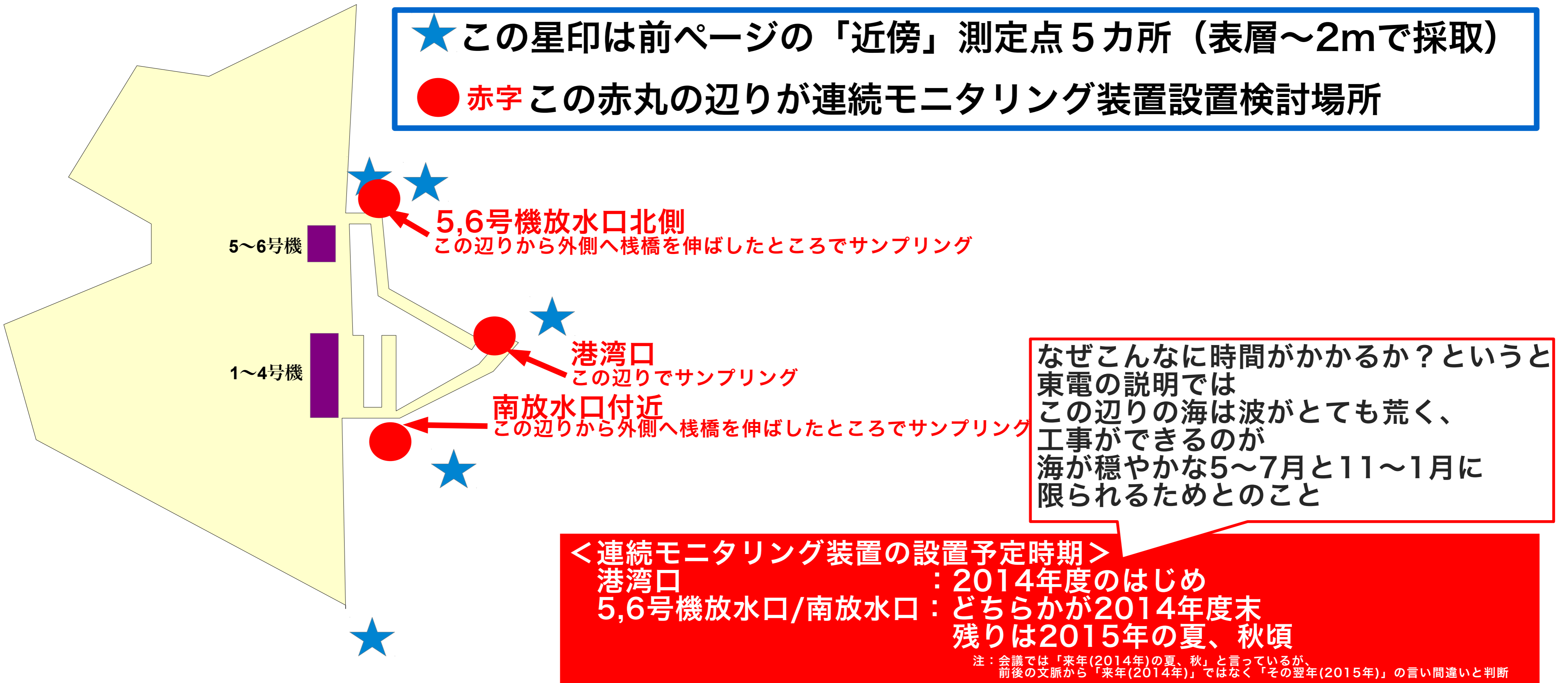
本来は漏れそうな所で連続的に監視してはじめて「今は漏れてません」と言えるはずですが。

実際、第1回の検討会(2013年9月13日開催)の時から

汚染水の漏洩監視の意味でも連続モニタリングの実現が要望され続けています。

ところが、現在もまだ連続モニタリングは実現されておらず、

今回の第3回検討会での東電の説明によると下図赤字の3カ所へ設置を検討中とのことでした。



この東電の説明に対して検討会では以下のような指摘がありました。

長いのでかなり要約しています。正確には議事録をご覧ください。(議事録8ページ目くらいから)

http://www.nsr.go.jp/committee/yuushikisya/kaiyou_monitoring/

水産総合研究センター 森田氏

なぜ港湾の外につけるのか？

5,6号機の方は港湾の中の水を吸い出したものを見てるんだから、港湾内に設置すればいいではないか。そうすれば海の荒れ具合など関係ないはず。

東京電力 菅井氏

そもそも海水モニターは1970年代の敦賀事故をベースに排水出口にモニターをつけるのが始まりなので、排水の出口にモニターをつけることを大前提に考えている。

国立環境研 堀口氏

目的はトレンチ等に溜まった高濃度汚染水が漏れるかもしれないという懸念に対処するためであるはず。ならば港湾内でその恐れのある場所でモニターしないと一番重要な所が抜ける。

東京電力 菅井氏

設置場所は、一応、社内に持ち帰って検討するが、

まずは放水口の外側、環境接点という所でのデータを連続的に提供したい。

東電の回答を見ると「汚染水が漏れたら大変なので監視しておこう」という発想ではなく「とりあえず測定する事」そのものが目的化しているようです。

この感覚で連続モニタリングが実現されたとしても、本来の目的を達成できるのか不安です。

そして、そのレベルの連続モニタリングですら実現できていない今、

安倍首相の発言は根拠のない口先だけの無責任発言と言えらると思います。

(今更あえて言うまでもないか。)